

「大阪名所 じっくりMAP」

淀川、治水の歴史と菅原道真ゆかりの地
—淡路～柴島—



詳しくは
裏へ！



阪急京都線の高架化事業で、開発が急ピッチで進んでいる淡路エリア。
ここは、菅原道真公が太宰府に左遷される際、
淀川を船で下る途中に当時中洲であった現在の
東淀川区淡路本町周辺を「淡路島」と間違えて上陸したことから
「淡路」という地名が付いたと伝えられており、
東隣の地名「菅原」とともに道真公ゆかりの場所が多く残されています。
また、大阪の水がめ・淀川のほとりにあるこの地は、
古くから洪水による川の氾濫が繰り返され、
先駆けて治水事業に取り組んできました。
そんな史実が数多く残る、古き良き街並みをご案内します。

淡路～柴島 案内人 平井和哉 (ひらい かずや)

ライター兼編集者。徳島県のタウン誌で編集者として経験を積み、2009年に独立。縁もゆかりもなかった高槻市で、編集・デザイン事務所「0.1knot(カンマイチノット)」を立ち上げる。今年から淀川区西中島のweb制作会社にも外務委託のディレクターとして在籍し、主に旅館・民宿のホームページのリニューアルを手がけている。趣味は街あるきで、最近では高槻と淡路の両方に立ち寄ったと言われる菅原道真に関わる史跡を巡るのマイブームだそう。